

事例マニュアル： 2014年度子ども祭り防災クイズ実施記録

記録の主旨

MZN-04 2015. 03. 23登録

今後人の集まる場を利用した“防災クイズ”を企画・実行するときの参考に供するために、2014年度子ども祭り防災クイズの実施記録を残す。

注：“事例マニュアル”は事実をそのまま記して参考に供するもので、定まった標準を示すものではありません。

1. 実施の契機

2014年度初に、防災隊の活動としてあり得る防災訓練の形式・内容および訓練対象と実施主体を表1. のように整理して把握した。その中の⑦として、子ども祭りの場を利用した防災クイズを行う考えが生まれてきた。

2. 防災隊としての実施決定

6月29日第2回隊長支隊長会議に、本部事務局防災訓練担当より添付資料1.「子ども祭り防災クイズ 8月30日(土)せんげん公園」の提案を行い、実施が決定した。

なお賞品の模擬店共通券は3枚／1人の提案をしたが、2枚／1人と決定した。

また対象は基本的に大人とすることが了解された。

クイズは本部事務局防災訓練担当が実行することに決まった。

3. 子ども祭りを主宰する自治会行事部の了承

行事部の子ども祭り準備会議にて実施内容を説明し、実施の了解を得た。

なお8月11日第3回隊長支隊長会議に、行事部の了解も得て実施に向かうことを報告。

4. 8月30日 子ども祭りにて防災クイズ実施—実施結果と振り返り:

- ・防災クイズは「今日は子ども祭りですが、ちょっとだけ大人の時間をいただいて防災クイズを行いたいと思います。子どもさんにも分かる問題もありますからお父さんお母さんに教えてあげてくださいね」という立場で行うことを考えていたが、こういう場づくりはできなかった。
- ・大人も子どもも模擬店の方に集中しているので、ざわついた中マイクで呼びかけても呼び掛けはまったく通らない。園内を回って人集めをしましたが、大人はそもそも今日は子どもの祭りだと思っているので、反応はにぶい。結局マイクの前には子どもが60人～70人？ほどとお母さんが少し集まってくれたが、マイクの声が通るのはその範囲。
- ・そこで方針を変更し、子ども向けの問題をゆっくり時間をかけて話しかけながら5つか6つ行って終わりにした。(用意した問題の全体を添付資料2. に示す。)
- ・また相手は基本的に大人と想定していたので、問題を難しくしたりやさしくしたりして正解を続ける人の数を調整するつもりでいたが、子ども相手にはそれはできず。
- ・用意された景品50人分あればOKと見て配ってみると、景品が行き渡らない子どもが少し出てしまった。(景品は模擬店の券2枚から、当日、外部からの寄付の昔風のおもちゃセットに変えていた。子どもたちはこの景品を欲しがって強く手を伸ばしてきた。)
- ・子ども祭りに上記下線部のような場の設定は無理なのではという想像力が不足したのがもくろみ通りに行かなかった根本の原因であった。
- ・なおクイズ進行のタイムキーパー役を一人事前に依頼しておき、クイズの質問に正解した人を順次中央に誘導してゆく役を当日現場で数人に依頼した。

・ただ一部のお母さん方からは「子どもに対しておもしろく防災教育を初めて」と評価していただく声も聞け、また子どもからも現場で「地震は大なまづが暴れるから起きる」に対して「地震は太平洋の方から押し寄せるプレートが・・・」や、「金魚が暴れると火事になる」には「金魚を飼って見ているけど、あばれても地震が起きたことは無いよ」の声が聞かれるなど立派なコミュニケーションが成り立ち、初めから子どもを対象にすることに徹すれば子ども祭りのときにも好い防災クイズが成り立つと考えられた。

あるいはまた大人を対象にするのであれば、小川会館における自治会の会合の場を利用するなどが好いと考えられた。

表1. 防災訓練の形式・内容、訓練対象と実施主体(案)

訓練の形式・内容	企画・実施 主体	防災隊本部		支隊	
	訓練対象	支 隊 を またがる 隊員一般	支 隊 を またがる 活動隊員	支隊 隊員一般	支隊 活動隊員
① 外部防災講習・防災訓練 (防災隊本部は窓口機能／支隊への案内／参加勧奨を行う。)		○	○		
② 総合防災訓練 ④⑤、あるいは⑥も交えた、ばあいによっては⑦も交えた、総合防災訓練		○		○	
③ 知識・イメージトレーニング 過去の災害の記録－全体の姿・トピックス・何に困ったか・救援(公助・ボランティア)の実際－や、小川自治会防災隊の活動状況や今後の方針などを映像・画像を交えて紹介し、共助・近所・自助の取り組み意識を高める。		○		○	○
④ 個別技術技能訓練 ア) 情報・広報 イ) 避難誘導 ウ) 防火・消火 エ) 救出・救護 オ) 給食・給水・非常用トイレetc.				○ 基本初歩	○ 高レベル
⑤ 実地演習訓練 現実の災害の様相を想定して、個別訓練によって習得した知識・技術を総合して試す <u>実地演習</u>		○		○	○
⑥ 希望者(隊員一般)に、“自助の”取っ付き難いことからのやり方を説明する場を設ける。 また必要なら希望者宅に活動隊員が出向いて支援する相談をする。 〔感震ブレーカー・災害伝言板171・家具転倒防止・非常用トイレetc. etc.〕		○		○	
⑦ イベント型訓練 夏祭りやもちつき大会、また小川会館における集まりなど、隊員が多く集まるイベントのときに防災要素(防災クイズetc.)を組み込んで行う訓練		○		○	

○は基本的なイメージを示す。(○の無いところの実施はあり得ないということではない。)

添付資料1.

子ども祭り 防災クイズ 8月30日(土) せんげん公園

●主旨

楽しみながらますます防災意識を高めてもらう。

●やり方

- ・集まっている人に向かって防災に関する問題を出し、YESかNOか答えてもらう。
YESなら両手で○、NOなら両手で×
- ・正解の人のみ次に進む。
- ・これを繰り返し、残った人が30人以下になったところ、または時間(MAX15分)で止め、残った(正解を続けた)人に賞品を出す。
- ・問題は面白いもの、防災の基本的な事柄を交える。
- ・賞品は模擬店共通券(2枚／1人)

●時間取り

10:45 模擬店金券販売開始

11:00頃 子ども神輿せんげん公園到着後 模擬店営業開始

11:30頃 MAX15分 防災クイズ(対象は限らないが実質的に大人)

注: 賞品を模擬店共通券とするので、それが使える時間に行う。

12:30前 ビンゴゲーム(子ども対象)

●用意するもの

- ・拡声器
- ・賞品の、模擬店共通券MAX60枚 (2枚／1人×MAX30人)
・・・行事部で用意するものの一部を回していただく。

●必要経費

賞品模擬店共通券60枚の費用負担 50円／枚×60枚=3,000円

参考:

- ・参加総勢約300名(うち来賓約20名、子ども会・自治会役員及びお手伝い約80名、子ども同伴の親御さん約200名)
- ・2013年度 模擬店8種類 金券1,522枚販売

以上

添付資料2. **用意した問題**（様子によりこの中から適するものを選んで出題してゆくことを想定）

1. 地震は大なまずが暴れるから起きる。×
2. ここにいる人で小川自治会の会員の人は全員防災隊員である。○
3. 公助・共助・自助のうち防災隊員が全員必ずやるべきものは自助である。○
4. 「あなたと家族の安全ノート」は非常時携帯用にコンパクトに作られている。×
（安全ノートは日頃よく読んで非常時にはもう見ずに済むようになっていることが期待される。）
5. 大地震に備える飲料水の備蓄は一人一日3リットルは必要とされる。○
6. 体重が大人の1／8の乳幼児でも、飲料水は大人の半分の一日1.5リットルは要る。×
（乳幼児は脱水症状になりやすいので、飲料水は多めに、大人と同じだけの用意が要ると言われている。）
7. 被災生活では口の中の清潔を保てなくなると肺炎になる 恐れがある。○
（口の中の細菌が増えるとそれが肺に入ってしまう、肺炎を引き起こす恐れがある。困難な生活の中でも健康安全の習慣を維持することはだいじ。）
8. 食料の備蓄は、非常時のためだから、腐りにくくカロリーの高いものに集中すべきである。×
（大災害時には心が折れないようにすることもだいじなことで、特に子どもなどには食べて楽しい（おいしい）ものも用意しておくのが良い。（甘いものはすぐにエネルギーに変わるという利点もある。））
9. 備蓄する場所が小さいときは備蓄の量を減らしてエコ備蓄にするという考え方もある。×
（量は減らさずに、小さい場所でもいくつかに分けて、「分散備蓄」を行うのがよい。）
10. 小さい地震はどじょうが暴れるから起きる。×
11. 金魚が暴れると火事になる。×
12. 伝染病予防のためにもトイレのことは行政が必死になってやるだろう。トイレは公助に期待し、その代り食料と水は十分に備えよう。×
（トイレは地震の起きたその日にも次の日も絶え間なく使わなければならないが、もしトイレのシステムがだめになったら、復旧にはやはりかなりの日数を覚悟する必要がある。食料・水とともに、トイレの自助も必要。）
13. 阪神淡路大震災では、8割の方が建物や家具の下敷きになって窒息したり押しつぶされて亡くなった。 ○
14. 昔の家は柱も太く頑丈だった。昭和56年6月以降に建てられた家は、安心のため耐震性のチェックをしておく
とよい。×
（1981年（昭和56年）6月1日に建築基準法が改正され、それ以降に建てられた家は新しい耐震基準に従っている。それ以前に建てられた建物の方こそ耐震性をチェックしておく必要性が高い。）

15. スタンドパイプというのは、簡単に言えば大地震のときに家屋の倒壊を防ぐつかい棒ことである。×
16. 冷蔵庫やピアノなど設置面積が大きいものは大丈夫だろうが、背の高いタンスなどは転倒防止が必要だ。×
(冷蔵庫もピアノも大地震になれば暴れる、すなわち横飛びする。)
17. 小川には青パトがあるからけがをした人の搬送も万全だ。×
(大地震のときには道路が陥没したり、建物の崩壊で青パトが通行できなくなることもあり得る。一つの手段だけで安心せずに、いくつかの備えをするべき。)
18. 小川地区では最近街頭消火器を5個から34個に増やし、ご自分の家に消火器を設置したところも350軒増えた。消火の備えは十分にできた。×
(まずはこれらをただ置いておくだけでなくしっかり使いこなせるようになる必要がある。さらにもっと遠くに水を飛ばせるスタンドパイプを多くの人が使いこなせるようになることも必要。)
19. 大地震のときには、公助・共助・自助のほかに近所どうして助け合う「近助」がとても大事である。○
20. 外にいる時に大地震が起きたばあい、近くにガソリンスタンドがあれば一時そこに避難するのも良い。○
(ガソリンスタンドは、消防法や建築基準法に厳しく定められて揺れにも火事にも強いものになっている。事実阪神淡路大震災でもつぶれるところは無かったし、火事の延焼もここで止まったと、最近安全性が評価されてきている。ただ場所が狭いので、一時的避難の場所)
21. 子供さんが宿題をやらないとお母さんの雷が落ちる。？

以上